

●P.1 【資料 3】「令和元年度第 4 回モニタリング調査結果について」

●P.2 「調査地点」

- ・調査地点は前回から変更ありません。

●P.3 「調査日、浸透水の移流拡散概念図、調査方法等について」

1. 調査日について

- ・令和元年度第 4 回調査を次の日程で実施しました。

浸透水と地下水 1 月 29 日

経堂池 2 月 5 日

2. 浸透水の移流拡散概念図について

- ・廃棄物土に触れて汚染された浸透水が、横に接する帯水層である Ks3 層および下に位置する帯水層である Ks2 層に移流拡散していました。
(汚染された浸透水の漏出を防ぐため遮水工事を行い、令和元年 11 月に完了しました。)

3. 調査方法およびグラフの記載について

- ・Ks3 層の地下水採水地点のうち H24-8(2)は、今までと同様、水量が僅かであったため pH および EC のみを測定しました。また、C-9 は、水量が少なかったためダイオキシン類以外を測定しました。
- ・調査地点において過年度に環境基準を超過した項目と電気伝導度の経年変化を帯水層ごとにグラフ化しました。なお、C-7、C-8、C-9 は P.26～27 に別にまとめています。

●P.4 「電気伝導度・Ks3 層と浸透水」

- ・全体的にほぼ横ばい、あるいは低下傾向で推移しています。

●P.5 「電気伝導度・Ks2 層」

- ・多くの地点で横ばいで推移しています。
- ・No.1、H24-2 では H30 年 6 月から上昇傾向となっています。
- ・No.3-1 では H30 年 11 月以降上昇傾向が続いています。

●P.6 「ひ素・Ks3 層と浸透水」

- ・全地点で不検出でした。

●P.7 「ひ素・Ks2 層」

- ・H24-7、H26-S2、No.3-1 の 3 地点で環境基準を超過しました。

- ・ H24-7 は H30 年 9 月から R1 年 9 月まで上昇傾向でしたが、R1 年 12 月にそれまでの値と同程度まで低下し、横ばいで推移しています。
- ・ 他 2 地点も横ばいで推移しています。

●P. 8~9 「ふっ素」

- ・ 全地点で環境基準以下でした。

●P. 10 「ほう素・Ks3 層と浸透水」

- ・ H26-S2(2)の 1 地点で環境基準を超過しました。
- ・ H26-S2(2)は横ばいで推移しています。
- ・ 揚水ピットは、環境基準値前後で横ばいで推移しています。

●P. 11 「ほう素・Ks2 層」

- ・ 全地点で環境基準以下でした。

●P. 12~13 「鉛」

- ・ 全地点で不検出でした。

●P. 14~15 「水銀」

- ・ 全地点で不検出でした。

●P. 16~17 「1,2-ジクロロエチレン」

- ・ 全地点で不検出でした。

●P. 18~19 「クロロエチレン」

- ・ 全地点で環境基準以下でした。

●P. 20~21 「1,4-ジオキサン」

- ・ 全地点で環境基準以下でした。

●P. 22~23 「ダイオキシン類」

- ・ 全地点で環境基準以下でした。

●P. 24~25 「調査結果まとめ」

- ・ 調査結果のまとめを記載しています。

●P. 26～27 「家庭系ごみの影響に関する調査について」

- ・令和元年度第 4 回の調査です。
- ・環境基準の超過はありませんでした。
- ・上流側として調査している C-8 でカドミウムが 0.0009mg/L 検出されました。これは環境基準値 (0.003mg/L) の 3 分の 1 以下の値です。上流側のため、自然由来のものと考えられます。
- ・年 4 回の調査の 1 年目が終了しました。結果は環境基準の超過は一度もありませんでした。
- ・令和 2 年度も引き続き調査を継続します。

●P. 28 「経堂池の水質等」

- ・EC について農業用水基準を超過しました。概ね横ばいで推移しています。

●P. 29 「結果一覧」

- ・結果の一覧表を記載しています。